

【教育長答弁】

キャリア教育は、生き方を含む社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促すもの。キャリア教育推進のポイントは『特別支援学級及び通級指導教室経営の手引き 実践編』で示している。



24年にわたる小学校勤務時代の経験から、課題意識をもっていた質問内容です。このことについては、私自身もまだまだ学習していかなければなりません。保護者や子どもたちとともに義務教育後の進路を見据え、未来への希望を語り合うことができるよう、今後も取り組んで参ります。

一般質問及び質疑



御手洗朋宏

【この画像は「インターネット中継」の画面から取り出したものです。県議会では「手話通訳」が行われています】

●大分外郭環状道路（4面）について

私は、大分市種具で生まれ育ち、今も住んでいる。近くには、東九州自動車道大分宮河内ICがあり、中九州横断道路の犬飼ICと接続され、更に豊予海峡ルートが実現し、愛媛県の保内（ほない）ICとも接続されると、まさに交通の要所となるが、周辺の道路整備が進んでいない。その代表が、大分外郭環状道路だ。大分外郭環状道路の整備に向けた今後の見通しは？

【土木建築部長答弁】

国、県、市で中九州道路の接続などを考慮した市内の渋滞対策について、中長期的に、いつ、誰が、どの路線を整備するか議論を重ねている。当面、国道197号鶴崎拡幅や庄の原佐野線の整備などによる渋滞対策を行っていることから、まずは、これらの早期完成をめざす。



「久土から先はいつになったら完成するのか」と尋ねましたが、明確な回答はありませんでした。道路は生活と密着する大切な課題の1つです。これからも粘り強く取り組んで参ります。

●大分市東部地域の渋滞対策について

乙津川と大野川という2つの川にかかる鶴崎橋をはじめ、乙津橋、高田橋、川添橋周辺の交通渋滞は、地域住民の悩みの種となっている。鶴崎橋東の朝夕の渋滞は長年続いており、近くで運送業を営む方から「30年訴え続けているが何もしてもらえない」と行政への不満の声をぶつけられた。国道197号の鶴崎拡幅が進んでいるが、それだけでは不十分だ。

【土木建築部長答弁】

東部地域の渋滞対策を重点課題とし、大野川大橋の無料化、県道坂ノ市中戸次線川添バイパスおよび都市計画道路岡臨海線の整備などに取り組んできた。しかし、人口の増加もあり、交通渋滞の解消までには至っていない。現在、国道197号線鶴崎拡幅を実施しており、4つの橋周辺などへの効果も期待される。早期完成に努め、効果を確認する。



交通渋滞の解消は、地域に暮らす皆様の切実な願いです。利便性だけでなく、安全性の面からも早急かつ具体的な対策を求めて参ります。

これらの他にも「放課後等デイサービス」「福島第一原発ALPS処理水の海洋放出」について質問しました。今回質問に取り上げた課題は、県民の皆様の生活と直結する大切なことばかりだと考えます。課題解決に向けて前進できるよう、議会以外の場も最大限生かしながら、これからも取り組んでいきます。

開会日（9/19）には知事による提案理由説明がありました。

県政諸般の報告

(1) 災害からの復旧・復興

- ・梅雨前線による被害額は約260億円

- ・復旧復興に取り組む

(2) 新型コロナウイルス感染症

- ・基本的な感染対策の徹底をお願いする

(3) 県経済の持続的発展

- ・コロナ禍前の水準に戻るも人材不足が問題

(4) 新長期総合計画等の策定

- ・60名の委員からなる県民会議を立ち上げ

《補正予算案》

補正額：192億2450万9千円

復旧・復興対策、貨物自動車運送業の経営や労働環境の改善に向けた支援

